



【あべのハルカス】

あべのハルカスは2014年に開業した、百貨店、オフィス、ホテルからなる複合商業施設です。日本初の300mを超えるスーパートールの60階建ビルです。9年間日本一の高さを誇っていましたが、2023年に麻布台ヒルズ森JPタワーに抜かれました。西日本では一番高いビルにはわかりません。

その60階にハスカル300という名の展望台があります。地上300mから見る風景は圧巻です。ただし、入場券2,000円/大人が必要です。因みに名古屋テレビ塔（中部電力 MIRAI TOWER）の金網で囲まれた展望台スカイバルコニーは100mの高さにあり、入場料は1,300円/大人です。見え方は全く異なります。1.5倍の値段で3倍の高さの眺望が得られるのです。お得です。



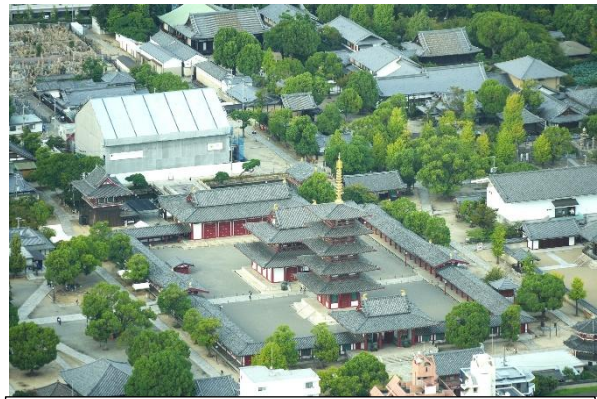
左:展望台ハスカル 300 から見た天王寺界隈の風景。

右:名古屋テレビ塔(中部電力 MIRAI TOWER)の屋内展望台(高さ100m弱か)から南を見た栄界隈の風景。300mとの対比が分かりやすい。

足元には JR 西日本の天王寺駅、天王寺公園と“てんしば”、新世界と通天閣、遠方には大阪城天守閣も見えます。四天王寺も手に届く感じで見えています。五重塔もミニチュアにしか見えません。あべのハルカスからそれらが見えるということは、逆にそこからもあべのハルカスが見えるということになります。まさに天王寺（阿倍野）のランドマークであり、シンボルでもあり、空間把握の座標軸になりえます。



天王寺公園の全景。左側が天王寺動物園である。



四天王寺の伽藍（中門、五重塔、金堂）と奥の改修中の講堂。ハルカス 300 から見るとミニチュア模型のようだ。



左：遠方には大阪城天守閣が見える。緑のゾーン。



右：その拡大図 このように、あべのハルカスからしっかりと大阪城天守閣を捉えることができる。

【てんしば】

その足元にある天王寺公園の“てんしば”。は 2015 年にオープンしました。正式な事業名は「天王寺公園エントランスエリア魅力創造・管理運営事業」と呼び、大阪市との協定により近鉄不動産が展開しています。この 10 年間で新型コロナの感染拡大もありましたが、5,000 万人近くの集客を誇っています。メインは芝生広場で、周りに飲食店や物販、子ども用娯楽施設が配置されています。

東京都豊島区の南池袋公園も 2016 年にリニューアルオープンした芝生公園です。広々とした芝生空間だけで、人々は集まってきます。（まだ訪問していませんので写真なし）

“てんしば”も南池袋公園もニューヨークのブライアントパークを参考にしていると言われています。ブライアントパークは 1992 年に大改修されて、現在の姿になっています。中



夕暮れのあべのハルカス 全景。足元に“てんしば”が広がる。

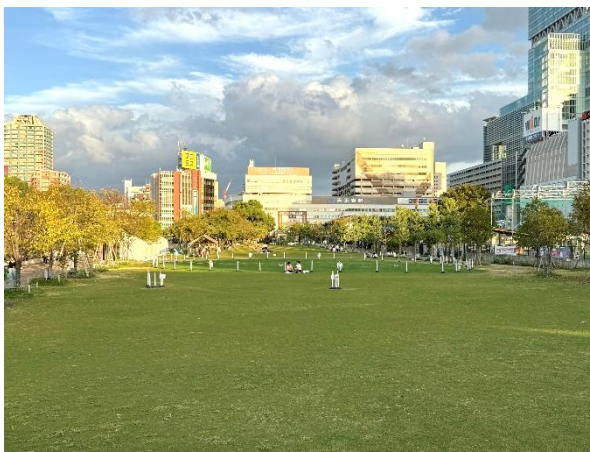
心にある芝生広場は普段は誰でも入れるのですが、私が訪問した時期は芝生が養生中のため、立ち入れませんでした。しかし、芝生広場の周りにはチェア（移動できないベンチではない）とテーブル、卓球台や小型メリーゴーランド、ペタング広場等々、時間を過ごす

空間は一杯あります。そして冬にはスケートリンクに代わります。東に隣接してニューヨーク公立図書館があります。これも世界屈指の規模を誇る図書館として有名です。



左：“てんしば”のエントランス。

右：“てんしば”をハルカス 300 から見る。エントランスにローマ字で TEN-SHIBA と書かれている。芝生広場の部分で色の濃い円形部分は「てんしば 10th」という文字が書かれているのだが、全く見えない。あるいはそこだけ芝生の養生中なのだろうか？



“てんしば”の芝生広場を西から東を望む。9月末だがまだ暑い。隣ではビール祭り“オクトーバーフェスタ”が行われていた。



天王寺公園に接して、お城がある。行き来していた警備員の方に「あれは何ですか？」ときくと「休憩施設ですが、潰れて使われていません。」とのこと。直接的表現だと「ラブホテル」ですね。ここで休憩すると「天下人」になった気分になれるのでしょうか？



“てんしば”や南池袋公園のモデルとなったニューヨークにあるブライアントパークの配置図。隣接する大きな建物がニューヨーク公立図書館だ。



ブライアントパークの風景①2019.9.11
芝生広場は養生中のため、中には入れない。



ブライアントパークの風景② 2019.9.11
公園を囲む空間にはチェアとテーブル、卓球台、
などがあり、自由に楽しむことができる。



ブライアントパークの風景③ 2019.9.11
公園を囲む空間にある小型メリーゴーラウンド。
子ども達が楽しめる遊具もあるのだ。



参考のため ブライアントパークに隣接するニューヨーク公共図書館の内部写真も掲載する。厳かな空間で人々は静かに図書を読んでいる。

ガチガチの施設でなく、何でも使える自由度の高い芝生広場のような空間は、まさに「都市の余白」と呼ぶに相応しい都市空間です。そのことを後期高齢者に話をすると、「人生の余白も重要だ！」と声高に主張していました。今や日常は余白だらけなんでしょうけど！？

余談ですが、“てんしば”の名称も大阪らしくていいですね。天王寺の芝生広場の略ですが、ひらがなで“しば”となると、「しばく」が想起され、暴力的なイメージもありますが、ここでは「茶をしばく」＝「お茶を飲みに行く」につながるので、空間のイメージと一致します。まさに大阪的なですね。

【四天王寺】

あべのハルカスの展望台からみると、すぐ目の前にあるかのような四天王寺。歩いて訪れることにしました。

「聖徳太子建立の寺」と呼ばれ、593年に建立に取りかかったとされます。特定の仏教宗派にはこだわらない立場から、1946年（昭和21年）に「和宗」の総本山として独立しています。伽藍を構成する中門、五重塔、金堂、講堂などは何度も災難に会い、現在の中心伽藍は1963年に完成したものです。五重塔は8代目となり、鉄筋コンクリート造です。火災にあっても、台風で倒壊しても、何度も再建するパワーはどこからくるのでしょうか。建物は新しくても、この地に宿る魂のエネルギーは絶えることがないのでしょうか。

中門の金剛力士像、光に浮かび上がる五重塔と金堂、いいですね。



四天王寺の中門の金剛力士像がライトアップで浮かび上がっています。仕事帰りの女性でしょうか？一人たたずんで眺めていました。



中門の金剛力士像。仁王像との違いは何か。同じものですが、前者は仏教の守護神、後者は寺院の守護神(仁王門に設置)という理解でいい？



黄昏の四天王寺 五重塔と金堂。ライトアップが美しい。